

## 中国新疆南部の農村地域におけるウイグル人女性の 教育状況に関する調査報告

買蘇提, 希日娜依  
新疆師範大学言語学院 : 副教授

大谷, 順子  
大阪大学大学院人間科学研究科 : 准教授 | 九州大学アジア総合政策センター : 協力教員

<https://doi.org/10.15017/16968>

---

出版情報 : 九州大学アジア総合政策センター紀要. 4, pp.67-83, 2010-03-31. Kyushu University Asia Center

バージョン :

権利関係 :



# 中国新疆南部の農村地域におけるウイグル人女性の 教育状況に関する調査報告

Empirical study on Education of Uyghur women in  
rural Xinjiang, P.R.China.

希日娜依・買蘇提 (シェリンアイ・マソティ)

(新疆師範大学言語学院副教授、准教授)

大谷 順子

(大阪大学大学院人間科学研究科准教授、九州大学アジア総合政策センター協力教員)

Sherenay MASUT

(Language College of Xinjiang Normal University Associate Professor)

OTANI, Junko

(Osaka University Graduate School of Human Sciences, Associate Professor, Kyushu University Asia Center, Affiliated faculty)

## Abstract

More than 70% of Uyghur women in rural oasis of Xinjiang Uyghur Autonomous Region of north-western P.R.China engage in agriculture. They also take a significant role in child-bearing and house chore along the traditional life style, and participate actively in the ceremonial occasions throughout year. The education level of these women is considered to have a great impact on the education level of their children, next-generation, as well as on conveying the tradition of their ethnic culture and future development of this population group. However, there has not been much study based on field work about the education of rural Uyghur women. This article, based on the field work, is to look at the education situation of rural Uyghur women in Southern Xinjiang, P.R. China, and to analyses the people's views on their daughters, and to discuss the current issues on the subject to highlight for future consideration.

Key words : Southern Xinjiang, Uyghur rural women, education

## 要約

中国西北部に位置する新疆のオアシス農村部において、ウイグル人女性は不可欠な労働力として女性人口の70%以上が農作業に携わっている。一方、伝統的な生活習慣に基づいているウイグル人の農村社会では、女性は家庭においても育児や家事などに従事し、また、伝統社会における冠婚葬祭や年中行事などにも積極的に参加している。このような農村社会において大きな役割を果たしているウイグル人女性が受けてきた教育のレベルは、次の世代を担う子どもたちの教育をはじめ、民族文化の伝承、ひいては民族全体の発展にも影響を与えていると考えられる。しかし、現在に至ってウイグル人の農村社会における女性の教育に注目し、フィールド調査を行った研究は皆無であると言っても過言ではない。本稿はフィールド調査に基づいて、南新疆の農村部を中心にウイグル人女性の教育状況(教育歴、職業など)と、その子女の教育に対する考えなどについて検討し、その現状を明らかにするものである。

キーワード : 南新疆農村地域、ウイグル人農村女性、教育問題

## I はじめに

本稿は中国西北部に位置する新疆、とりわけ南新疆のオアシス農村地域において行ったフィールド調査に基づいて、一つは南新疆の農村社会におけるウイグル人女性の教育状況について、二つはその子女の教育に対する考えについて明らかにするものである。

1990年代に入って新疆における女性問題に関する研究は、かつてにないほど盛んに行われるようになった。『新疆婦女運動史』(新疆女性運動史)(劉云、徐霞、1995)、『新疆女性問題研究』(新疆の女性問題に関する研究)(海里且姆・斯拉木、1995)、『新疆少数民族女性教育研究』(新疆少数民族女性の教育に関する研究)(徐霞、1999)などの研究成果が相次いで出版され、新疆の女性問題研究が新たな局面を切り開いたのである。とくに徐霞編『新疆少数民族教育研究』は、部分的な文献資料を基に中華人民共和国成立前と、成立後の50年にわたる新疆の少数民族女性の教育について叙述し、アンケート調査を通して貧困地域における農村女性の教育問題とその対策、さらに教育が少数民族女性の発展に与える影響などの問題についてその見解を述べて、我々の調査研究に有利な基礎的知識を提供した。

新疆においてウイグル人女性に関する研究が注目されるようになって約20年になり、上述のようにある程度の研究成果が上がっている。これらの研究成果は一定の範囲において中華人民共和国成立以来の新疆の女性問題に関する研究の空白を埋めた。しかし、それは基本的に文献資料に基づく基礎研究の領域を超えておらず、フィールドワークによる調査研究の蓄積が十分であるとは言い難い。

近年では、迪木拉提・奥买尔(ディリムラティ・オマル)氏を代表者とする「維吾爾婦女在南疆農村脫貧致富中的作用」(ウイグル人女性が南新疆の農村地域において(豊かになるために)果たしている役割について)(迪木拉提・奥买尔、1998)という調査研究は、農村地域が貧困から抜け出して豊かになるには、ウイグル人女性が一体どのような役割を果たしているのか、という視点からフィールド調査を行い、ウイグル人農村女性が関わっている、農作業、家事、育児、社会参加など全般にわたって総括的に調

べている。この調査では、氏自身が述べているよう、ウイグル人農村女性の教育状況と、その子女の教育に対する考えなどの問題については言及に及んでいない。しかし、この調査を通して新疆の農村地域におけるウイグル人女性に対する教育の重要性について認識し、調査報告書において次のように結論付けている。「南新疆においてウイグル人女性は出産、子育てという重要な役割を担っているだけでなく、新疆の経済建設の欠かせない力として、新疆の社会経済に無視できない役割を果たしている。女性の資質は直接的に次の世代の教育に、ひいては民族の発展にも影響を与える。したがって女性の資質の向上は一刻も猶予できない重要な役目である。」(迪木拉提・奥买尔、1998:3)

迪木拉提・奥买尔(ディリムラティ・オマル)氏が指摘しているように、農村社会において重要な担い手として多大な役割を果たしているウイグル人女性が受けてきた教育状況は、次の世代を担う子どもたちの教育をはじめ、民族文化の伝承、ひいては民族全体の発展にも影響を与えるものとされる。しかし、こうした農村社会におけるウイグル人女性の教育に注目し、その実態について調べた研究は皆無であると言っても過言ではない。本稿は、こうした背景を踏まえた上で初歩的な研究として、まず、ウイグル人が最も集中している南新疆の農村地域のウイグル人女性がどのような教育を受けてきたのか(教育歴・学歴)、また、その子女の教育に対してどのような考えを持っているのか、などの問題について、フィールド調査によって得られたデータ資料を基にその現状について明らかにすることを試みたい。

フィールド調査は1999～2000年の間、二度にわたって行われた。一回目は1999年8～9月においてあり、二回目は2000年8月においてである。調査地は南新疆の阿克苏地区、カシュガル地区、そしてホータン地区であり、具体的な地域名は以下のとおりである。

調査対象は22～55歳の600名の農村女性である。調査対象の詳細については表1に示されている。

調査は主にアンケート調査とインタビュー調査であった。アンケート調査は600部のアンケート用紙を配布し、445部を回収した。回収率は

ア ク ス 地 区	阿克苏市托普魯克（トブルク）郷、温宿（クナシャフル）県托乎拉（トフラ）郷、阿熱勒（アラル）郷
カシュガル地区	カシュガル市夏馬勒巴格（シャマルバグ）郷、疏勒（イェギシャフル）県呀甫泉（ヤブチャン）郷、巴仁（バリン）郷、疏附（コナシャフル）県吾帕爾（オパール）郷、塞曼（セマン）郷、
ホータン地区	ホータン市、ホータン県拉依卡（ライカ）郷、墨玉（カルカシュ）県墨玉鎮、奎牙（クヤ）郷、于田（ケリイェー）県先巴扎（シェンバザール）鎮

表 1 調査対象の年齢

(単位：人)

年 齢	~ 20	21 ~ 30	31 ~ 40	41 ~ 50	51 ~	計
地 区						
ア ク ス 地 区	0	49	57	31	13	150
カシュガル地区	4	58	41	27	24	154
ホータン地区	6	43	38	25	29	136
計 (人)	5	150	136	83	66	440
%	1.1	34.1	30.9	18.9	15.0	100

典拠：Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining mädnäyät sapesini yuqiri kötirish häqqidä qisqichä mulahizä (南新疆におけるウイグル人女性の教育レベルに関する一考)”, *Shinjang pidagogika universiteti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san:7.

74.16%であった。インタビュー調査は、各地域の教育行政の担当者、政府行政の女性担当者、そして世代別の農村女性を対象に行った。また、日常における農村女性の行動様式や生活パターンなどについても観察した。

新疆において、南新疆のウイグル人農村女性の教育問題に注目してフィールド調査を行い、その結果を明らかにすることは、初めての試みである。このことは、ウイグル人農村女性の教育の現状を知る上で、極めて貴重なデータを提供することになり、今後の女性問題研究の促進と広がり大きな意義をもつものである。

## II 新疆の概況

### 1. 地理・自然環境

新疆は中国の西北部に位置し、北はアルタイ山脈、南は崑崙山脈によって挟まれ、真ん中を貫く天山山脈によって大きく2つの地域に分けられている。天山山脈以南の地域は南新疆と呼ばれ、その中心にはタクラマカン砂漠を抱く中国最大のタリム盆地がある。南新疆では、古来より砂漠の周縁に点在するオアシス都市が栄え、シルクロードの中継点として重要な役割を担っ

てきた。一方、北新疆と呼ばれる天山山脈以北の地域には、ジュンガル盆地が横たわっており、緑豊かな草原地帯が広がっている。3つの山脈と2つの盆地によって形成されている新疆の地形は、ちょうどその「疆」の字の右側に例えられる。

新疆の自然環境は極めて厳しく、夏は暑く、冬は寒い。海に遠いため非常に乾燥しており、典型的な大陸性気候である。平均の年間降水量は北では200ミリであるのに対し、南では50ミリ程度に過ぎない。しかし、新疆領内の山々を源とする河川がタリム川をはじめ320本もあり、砂漠周辺のアアシスを潤っている。また、100以上の湖があり、サイラム湖などが有名である（『新疆概況』1988：4）。

### 2. 人口・民族

新疆には現在ウイグル、漢、カザフ、回、クルグスなどの民族が居住しており、2002年の統計によれば、全人口は19,051,900人である。うちウイグル人の人口が最も多く、約870万人あり、全人口の45.60%を占めている。ウイグル人は主に天山山脈以南、崑崙山脈以北のすべて



図1 中国、及び新疆の地図

典拠：<http://home.mo1.itscom.net/shimizu/yultuz/guide/information/xinjiang/index.htm>

のオアシス、とくにアクス、カシュガル、ホータンに集中しており、その総人口の72.83%を占めている。また、都市人口と農村人口という区分からみれば、ウイグル人総人口の80.78%が農村人口であり、9.08%が郷鎮（町）人口である。都市人口はわずかに10.14%に過ぎない（『2000年人口普查中国民族人口資料（上册）』，2003：30-78）。これらの統計からわかるように、大部分のウイグル人は農村地域に居住しており、主に農業を営んでいる。

### 3. 言語・文化

ウイグル人は古来より固有の言語と文字を有し、現在ではトルコ系言語の現代ウイグル語を使用する。現代ウイグル語の文字はアラビア文字を基礎に作られた文字である。ウイグル人には独特の風俗習慣と伝統文化があり、長い歴史の中で独自の文化を創り出している。かつて新疆にはトーテム崇拜に基づくシャーマニズム、ゾロアスター教、仏教などの宗教が伝わり、その後イスラーム教が伝わり、その圧倒的な地位により他の宗教に取って代わった。現在では、ウイグル人のほとんどがイスラーム教を信仰している（劉志霄，1985：2；Abdukerim Rakhman，1989：6-7）。

## Ⅲ ウイグル人農村女性の職業と学歴

### 1. 職業

伝統的な農業を主な営みとしている南新疆で









は、ウイグル人女性は不可欠な労働力として、農村女性人口の70%以上が農業に携わっているとされる。1998年の調査報告によれば、カシュガル地区では女性総人口の82%が、ホータン地区では90%が農村戸籍であった（迪木拉提・奥买尔，1998：2）。このことからわかるように、多くのウイグル人女性は農村地域において重要な労働力として大いに貢献している。このことは今回の調査でも明らかになった。表3でも示されているように、南新疆の農村地域では農業に従事している女性は81.3%を占めており、その他の仕事に携わっている女性は少なく、教師、幹部、商人、その他を合わせても20%を満たさない。この結果は、迪木拉提・奥买尔（ディリムラティ・オマル）氏が代表とする「ウイグル人女性が南新疆の農村地域において（豊かになるために）果たしている役割について」の調査研究とも一致している。つまり、少なくとも20世紀末までは、南新疆の大部分の地域では依然として伝統的なオアシス農業を主な産業形態としており、女性は重要な労働力として大きな役割を果たしていることが言える（迪木拉提・奥买尔，1998：1）。

一方、伝統的な生活習慣に基づいている農村社会では、女性は家庭においても育児や家事などに従事し、また、伝統社会特有の冠婚葬祭や年中行事などにも積極的に参加している。今回の調査を通して至るところで次のような日常が観察された。女性は家族の誰よりも朝早く起床

表2 新疆の主な民族の人口分布表 (2002年)

(単位:人)

新疆ウイグル自治区の主要民族人口分布表 (2002年)						
	合 計	ウイグル	漢 族	カザフ	回 族	クルグズ
新疆ウイグル自治区	19,051,900	8,692,298	7,595,650	1,333,455	854,576	171,316
ウルムチ市	1,757,193	223,928	1,291,306	52,054	156,453	1,533
カラマイ市	290,043	39,990	225,105	11,328	6,481	154
トルファン地区	566,854	391,352	136,933	228	37,104	3
ハミ地区	519,726	95,573	357,783	45,952	15,421	18
昌吉回族自治州	1,527,202	61,588	1,142,164	125,592	176,133	185
ブルタラ・モンゴル自治州	424,343	53,437	285,833	40,409	15,004	74
バインゴルン・モンゴル自治州	1,088,702	356,255	622,990	1,079	56,340	119
アクス地区	2,144,346	1,561,948	554,641	164	13,104	9,288
キジルス・クルグズ自治州	451,946	288,099	26,890	68	487	131,999
カシュガル地区	3,487,556	3,105,616	328,265	196	7,577	5,926
ホータン地区	1,717,872	1,663,434	50,884	93	1,352	884
イリ・カザフ自治州	4,017,619	639,614	1,816,246	1,021,497	334,078	17,047
イリ州直轄県市	2,477,619	587,014	1,008,202	494,458	249,107	14,931
タルバガタイ (塔城) 地区	937,382	42,118	545,884	229,757	64,337	2,020
アルタイ地区	602,326	10,482	262,160	297,282	20,634	96
石河子市	610,756	7,185	578,103	3,457	15,048	60

ウイグル	 90%以上	漢 族	 90%以上
	 70%以上		 70%以上
	 50%以上		 50%以上
	 30%以上		 30%以上
クルグズ	 30%以上	カザフ	 30%以上

典拠：新疆ウイグル自治区地方誌編纂委員会、2003年、『新疆年鑑』、新疆人民出版社。  
<http://home.mo1.itscom.net/shimizu/yultuz/guide/information/xinjiang/population.htm>

表3 調査対象の職業

(単位：人)

地区 \ 職業	農民	教師	幹部	商人	その他
アクス地区	129	1	11	0	9
カシュガル地区	115	19	19	1	0
ホータン地区	112	1	15	6	0
計(人)	356	21	45	7	9
％	81.3	4.8	10.3	1.6	2.1

典拠：Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining mädäniyät sapesini yuqiri kötirish häqqidä qisqichä mulahizə (南新疆におけるウイグル人女性の教育レベルに関する一考)”, *Shinjang pidagogika universiteti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san: 8.

して、まず庭の掃除をする。その後、朝食を作り、旦那と一緒に畑に行く。小さい子どもがいる場合は、子どもを連れて畑に行き、子どもの面倒を見ながら農作業を行う。夜家に帰ったあと、まず家畜に餌をやり、そして夕食を作って家族に食べさせる。日にちによっては洗濯をしたり、主食であるナン(食パン)を作ったりする。そのほかに親戚や近所との日常的な付き合いをこなし、美味しい物を作ったときは、近所に裾分けする。また、冠婚葬祭があれば、積極的に手伝う、などなどである。

以上のように、南新疆の農村地域では、大部分のウイグル人女性が農業に従事しているだけでなく、家事や子育てなどの重労働についてもこなしているのである。このような忙しい生活を強いられている農村女性は、自分自身の置かれている状況を踏まえた上でその子女の教育についてどのように考えているのか、という問題が本稿の最も関心を寄せるところであるが、その前に、これら農村女性がこれまでにどのような教育を受けてきたのか、また、最終学歴がどのようになっているのか、さらに学校教育以外に何らかの学習機会があったのかどうか、などの問題について次のよう項目で見よう。

## 2. 学歴

ウイグル人社会において、母親の教養は極めて重要視される。この点は、子ども、とくに女の子を評価する際に、その母親が基準になることから分かる。ウイグル人女性の教養についてアナル、グリバハル両氏は、その著書におい

て、次の世代の教育の向上には、まず女性自身の教養の重要性を唱えており、次のように述べている。「子どもの教育において母親は父親より遥かに大きな影響を与える。母親の役割は単純に子どもに物質的な生活環境を提供するだけではなく、いっそう子どものはじめての教師となり、生涯の教師となるからである。そのため、母親の教養は子どもの素質に影響を与えるのみならず、場合によっては民族全体の教養を決定するといっても過言ではない。」(Anar Muhämmät, Gülbahar Nasir, 2007: 55)

こうした考え方を背景に、今回の調査では、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性の受けてきた教育はどのようなものであるのか、ということについて二つの側面から調べてみた。一つは学校教育による学歴であり、二つは学校教育以外の農村社会における学習機会である。

まず、学校教育による学歴であるが、この問題についてのアンケート調査で「学校には何年通いましたか?」と質問してみた。その結果は表4で示されているように、小学校までと答えた女性が42.0%で最も多く、中学校までと答えた女性が23.9%で次いでであり、高校までと答えた女性が9.8%で最も少なかった。また、非識字者が17.3%であったことも特筆に値することである。ここで注目すべきことは、アンケート調査のなかで小・中・高校までの学歴を有すると回答した女性に、各級の学校を卒業するまでに通学したわけではなく、場合によって卒業せずに中途退学した者も含まれることである(表6を参照)。このように、調査結果では約半

数も満たない女性が小学校の学歴を有し、三分の一も満たない女性が中学校の学歴を有すると示されているが、それは中途退学者も含まれるデータであるため、実際にはもっと低いものであると考えられる。例えば、インタビュー調査によって明らかになったことであるが、小学校までの学歴を有すると回答した女性の中には、一年間しか学校に行っていない者から、小学校を卒業するまでの者が含まれていた。また、小学校卒業の学歴を有するとされる一部の年配の女性には、読み書きがほとんどできず、非識字者に近い状態である者も結構含まれたこともこの点を物語っている。

一方、学校教育以外の学習については、極めて機会が少なく、あるとしても形式的なものしか過ぎないことが明らかになった。例えば、フィールド調査を通して行政機関のある町に非識字者を無くすための「識字クラス」が設けられていることがわかったのであるが、「識字クラス」

の教師によれば、「大部分の識字クラスは形式的なもので、上からの検査を適当にあしらうためのものである。最終的に自分の名前を書くことができれば、それで卒業と見なしており、実際にはほとんど効果がない」ということであった。また、「識字クラス」の生徒たちも次のような考えを持っていた。「農繁期に農作業が忙しいので、勉強する気にはならない。このようなクラスはまったく意味がない。参加しなければ、怒られるし、罰金もされる。参加すれば、今度は自分の農作業が遅れる。」そのため、このような学習機会があっても、結局何のためにもならないようであり、機能していなかった。

また、ウイグル人は現在に至っても伝統的な手工業が盛んに行われている（民族衣装の裁縫、絨毯織り、帽子作り、刺繍など）。例えば、絨毯織り技術の一つをとっても、南新疆の各地域に大小規模の工場があるだけでなく、農家においても絨毯織りは常に流行っており、南新疆

表4 調査対象の学歴

(単位：人)

学歴 地区	非識字者	小学校	中学校	高校	高校以上
アクス地区	18	72	46	11	3
カシュガル地区	20	50	39	24	21
ホータン地区	38	63	20	8	7
計(人)	76	185	105	43	31
%	17.3	42.0	23.9	9.8	7.0

典拠：前掲表1を参照。

表5 農村女性の習ったことがあった手工芸技術

(単位：人)

手工業 地区	裁縫	絨毯織り	帽子作り	刺繍	身につけていない	その他
アクス地区	29	6	2	6	95	14
カシュガル地区	41	20	27	30	63	15
ホータン地区	22	35	1	2	71	11
計(人)	92	61	30	38	229	40
%	20.9	13.9	6.8	8.6	52.1	9.1

質問：どのような手工芸技術を習ったことがありますか？

典拠：希日娜依・买苏提、2004、「南疆维吾尔农村妇女的教育问题研究（调查报告）」（南新疆のウイグル人農村女性の教育問題に関する研究）、51。

のすべてのオアシスに存在する。とくにホータン地区では、農家の庭に入っていけば、往々にして軒下に絨毯織りの棚がかかっており、女の子や男の子、それに年寄りが座ってのんびりと絨毯を織っている姿が見える（李杨，2006：146-147）。しかし、今回の調査では、このような伝統的な手工業の技術を身につけている女性は50%にも満たなかった（表5を参照）。さらに、学校教育以外に何らかの農業技術を修得した経験のある女性も45.9%しかなく、まったくしたことがないと答えた女性は52.0%であった。

以上の結果からうかがえるように、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性には、正規の学校教育を受けたもの少なく、小学校まで教育を受けたものは調査対象の半数にも満たなかった。それもすべてが小学校を卒業したわけではない。また、その他の学習機会もほとんどなく、伝統的な手工業技術を身につけている女性も調査対象の半数に過ぎなかった。ではなぜ、ウイグル人農村女性が学校で教育を受け続けることができなかつたのであろうか、このような低学歴が生じた原因は一体何であらうか。この問題については次の項目で見てみよう。

#### IV 低学歴の背景

前項では、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性は系統的に学校教育を受けたものが少なく、その他の学習機会も得られていないことが明らかになった。この結果は、南新疆におけるウイグル人女性の70%以上が農村人口であることを考えれば、決して軽視できるものではない。このような低学歴をもたらした原因は多方面にわたって検討する必要がある、簡単に結論を出すことは難しい。しかし、今回の調査によって中途退学者の割合が高いことが低学歴をもたらす一因になっていることがわかった。

表6が示されているように、各級の学校を卒業するまでに教育を受けた者よりも中途退学をした者の割合が高く、調査対象者全体の63.7%を占めている。逆に正規に学校を卒業した者は26.5%に過ぎず、全体の3割にも満たなかった。また、学校を行ったことがないと答えた女性も9.8%あった。この結果からは、南新疆の農村地域において女子の中途退学者が高い割合を示

表6 中途退学者の割合 (単位：人)

地区	答え	卒業	中途退学	学校行っていない
阿克苏地区		43	100	7
カシュガル地区		49	100	14
ホータン地区		27	86	23
計(人)		119	286	44
%		26.5	63.7	9.8

質問：学校に行ったことがありますか？

卒業しましたか、それとも中途退学しましたか？

典拠：Aynurā Dolat, 2004, “Milliy maarip wā Jānubiy Shinjiang Uyghur yeza ayalliri (南新疆の農村社会におけるウイグル人女性と民族教育)”, 「南疆维吾尔农村妇女的教育问题研究(调查报告)」。

していることが分かる。では、このような高い割合での中途退学をもたらした要因は何であらうか。この問題について質問したところ、表7で示されたような、経済的な理由、親の反対、家業の手伝い、早婚、本人が勉強したくないなどの結果が得られた。以下では回答が最も多かった「家庭の経済的な原因」と「親の反対」という理由から中途退学したとする二つの側面から考えてみたい。

#### 1. 貧困による中途退学

今回の調査では南新疆のウイグル人農村女性の家庭の収入源について聞いてみたが、78.9%の主な収入源は農業によるものであった。この結果は、大多数の農村女性の家庭の収入は農業に頼っていることを意味し、南新疆の農村地域では工業産業がほとんどないため、農業のみでの収入はかなり低いものであると考えられる。今回の調査では収入について調べていないので、詳しいことは分からない。しかし、フィールド調査を行ったホータンのある村の村長によれば、「農家一人の年間平均収入が100元にも満たないところも少なくない」ということであった。表8の統計でも示されているように、少数民族が集中している地域ほど平均収入の割合が低くなっていることがわかる。このような低収入による経済的な苦しさから、学校で教育を受け続けることは難しい。このことは、アンケート調査のなかで「経済的な理由」により中途退学をせざ

表7 中途退学の理由

(単位:人)

地区	理由 本人が勉強 したくない	家庭の 経済的原因	結婚する ため	親の反対	成績が 良くない	家業の 手伝い	その他
アクス地区	17	51	6	36	4	15	0
カシュガル地区	20	48	25	24	14	25	0
ホータン地区	12	45	19	26	9	31	16
計(人)	49	144	50	86	27	71	16
%	11.1	32.7	11.4	19.5	6.1	16.1	3.6

質問: 中途退学をした原因は何ですか?

典拠: Aynurā Dolat, 2003, "Jānubiy Shinjang Uyghur yeza ayalliri wā ailā iqtisadi toghrisida (南新疆の農村社会におけるウイグル人女性と家庭経済)", *Shinjang pidagogika universiteti ilmiy zhornili* (紀要) 3-san: 43.

表8 1996年度一部の地域の農民と遊牧民の一人当たりの平均収入と少数民族の割合

地域	一人当たりの 平均収入(元)	少数民族人口の 割合(%)
自治区	1290.01	61.92
ウルムチ市	2507	54
カルマイ市	2803	22.72
昌吉回族自治州	2370	24.98
アクス地区	1150	77.49
キズルスギル自治州	856	94.86
カシュガル地区	857	90.98
ホータン地区	632	97.14

典拠: 高仲霞、1999、『新疆農村社会保障体系研究』(新疆農村社会の保障システムの研究)、新疆人民出版社、第7頁。

るを得なかったという回答が最も多く32.7%を占めていることから確認できる。つまり、南新疆の農村地域において家庭の経済状況は、ウイグル人農村女性の学校教育を受け続けることができるかどうか、ということに直接的な影響を与えており、中途退学の主な原因の一つになっている。

## 2. 親の反対

一方、親の反対が農村女性の中途退学を促すもう一つの主な原因になっている。女の子が学校教育を受け続けることに親が反対し、中途退学をせざるを得なかった背景には、二つの要因があった。一つは早婚という風習によるもので

ある。中国の法律(「婚姻法」)では、少数民族の場合は結婚年齢が女性は満18歳、男性は満20歳となっている。しかし、曹紅の南新疆の農村地域における結婚年齢に関する調査によれば、初婚年齢の最低限は、男性は14歳、女性12歳になっているという(曹紅、1999: 144)。早婚という現象は、ウイグル人の結婚に対する伝統的な考え方とも関わっており、イスラーム教からの影響もあって、親は子どもの結婚を定めるのは自分たちの責任と義務であると考えている。とくに女の子の婚姻に対して急ぐ傾向がある。民俗誌的なアプローチからウイグル人の風俗習慣について紹介を試みたアブドライム・エビブラ氏は、ウイグル人の婚姻について次のように

述べている。「ウイグル人の親はまず自分たちの友人や周囲から息子に結婚相手を探し、その後仲人を通してその意思を伝える。このような縁談は男性側のみに許され、女性側から縁談を持ち込むことは絶対でない。」(Abdurāhim Hābibulla, 2000 : 237 241) そのため、女性側は縁談が持ち込まれることを常に待っている状態であり、積極的に娘をお嫁に出すことはできないので、娘を持っている家庭では縁談があれば、できる限り早めに嫁に出されることが求められる。このことは、表7で中途退学の理由の一つが「結婚するため」であるという回答が4番目に多く、11.4%を占めているのも早婚という風習と関わっており、親の決定に逆らうことができなかつた結果であったことを意味するものであると考えられる。

親の反対のもう一つの要因は、家事の手伝いをしてもらうためである。このことは、表7で「中途退学の理由」の16.1%が「家業の手伝い」のためであると回答していることからわかる。貧しい農村社会において子どもは一人前の労働力として認められ、女の子の場合は、農業を携わっている母親の代わりとして早いうちに家事労働に従事することが多い。このことについてインタビュー調査の中で、一部の女性は次のように語っている。「我々の子どもはいくら勉強しても大学に合格することは極めて難しい。そのため、小学校を卒業すれば、家で家事の手伝いをしてもらい、弟や妹の面倒を見てほしいと思っている。そうすることによって、私は(母親)旦那と一緒に農作業に携わることができる。また、農繁期には子どもに農作業をも手伝ってもらうことができる。」とくに「改革」「開放」政策が実施されて以来、市場経済の原理が働いた条件の下で、とくに土地を多く借りている農家では子どもは貴重な労働力として手伝ってもらうことが多い。このように、南新疆の農村社会における貧困と急激な社会体制の変動は、さまざまな弊害をもたらし、農村女性の教育にもマイナス的な影響を与えることがある。

## V ウイグル人農村女性の子ども教育に対する考え

上述の調査結果が示されているように、南新疆における多くのウイグル人農村女性は、正規

の学校教育を系統的に受けておらず、また、農村社会におけるその他の学習機会をも十分に得ていない。このことが低学歴を招いた主な要因の一つになっている。ウイグル人哲学者のアブドシュクル・ムハメトイミンが「母親の教養、受けた教育の程度、人間関係に対する態度、子どもに対する愛情の深さなどは次の世代の成長に直接的な影響を与える。」(Abduxükür Muhämmätimin, 2002 : 145) と指摘しているように、農村社会におけるウイグル人女性の低学歴は、必然的にその子どもの教育にも悪影響を与えるものと考えられる。とくに80年代以降の「改革・開放」政策によって新しく導入された市場経済という競争原理の下で、未だに古い体制から抜け出す出口を見つけていないウイグル人農村社会において、学歴が低く、経済情況が決して豊かではないこれら農村女性は、その子女の教育についてどのように思っているのか。以下では主に農村女性の子ども教育に対する目的とその期待、さらに子ども教育に対する考えについて見てみたい。

### 1. 子どもの教育の目的とその期待

子どもの教育について、まず、子どもに教育を受けさせたいかどうかという問題について質問してみた。その結果、表12のとおり、72.5%が「子どもに教育を受けさせたい」と回答している。さらに表9のように「いつまで(何年)子どもに教育を受けさせたいのか」と質問したところ、半数以上の52.5%が「大学を卒業するまでに教育を受けさせたい」と答えている。また、教育を受けさせたくても、経済的な理由により受けさせることができないという者も25.5%あった(表12を参照)。次に「子どもに教育を受けさせる目的は何か」ということについて聞いてみた。この質問に対して表10のとおり、複数回答で87.1%の女性が「農村から離れてよい職に就いてほしい」からであることを挙げている。「将来子どもにどのような職に就いてほしいか」という質問に対して、表11で示しているようにほとんどの女性が教師、医者、幹部、職人、警察になってほしいと答えている。

以上のアンケート調査の結果から、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性の大多数が自分の子どもに教育を受けさせたいと考えている

表9 農村女性の子ども教育に対する期待

(単位：人)

地区 \ 答え	小学校	中学校	高校	短大	大学	その他
アクス地区	2	46	11	3	76	14
カシュガル地区	5	29	23	14	84	11
ホータン地区	16	28	6	3	71	8
計 (人)	23	103	40	20	231	33
%	2.5	23.4	9.1	4.5	52.5	7.5

質問：子どもにいつまで教育を受けて続けてほしいと思いますか。

典拠：Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining pärzäntirini tärbiyiläsh qarishi (南新疆におけるウイグル人女性の子女の教育に対する考え)”, *Shinjang maarip inistituti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san: 23.

表10 農村女性の子どもの教育に対する目的

(単位：人)

地区 \ 答え	貧困を 抜け出す	よい職に 就く	知識を 求める	義務教育	農村への 貢献	その他
アクス地区	50	72	67	6	40	3
カシュガル地区	52	79	85	8	37	4
ホータン地区	48	82	69	8	27	3
計 (人)	150	233	221	22	94	10
%	34.1	53	50.2	5	21.4	2.3

質問：など子どもに教育を受けさせます？

典拠：Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining pärzäntirini tärbiyiläsh qarishi (南新疆におけるウイグル人女性の子女の教育に対する考え)”, *Shinjang maarip inistituti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san: 24.

ことがわかる。また、その子女に対する教育の目的が明確であり、教育を受けることによって理想の職を手に入れ、より良い生活をしてほしいことが望まれているのであった。一方、一部の農村女性はインタビュー調査のなかで、次のような考えを持っていたのも確かである。「子どもに学校で教育を受けさせないと政府が認めない。そのため、子どもが中学校を卒業したら、何らかの技術を身につける弟子入り教育を受けさせたいと考えている。と言うのも、我々農家の子どもはいくら勉強しても大きいことを成しえることはできない。それより、早いうちに何かの職人技術を身につけさせ、将来自分自身を養うことができるのが賢明な選択である。」

ここで一つ注目されることは、農業に従事している多くの女性はその子女の将来の職業につ

いて教師を望んでいることに対し、農村地域の学校で教えている何人かの教師は「何でもよいですが、教師だけにはなあってほしくない」と回答したことである。それは次のような理由によるものであった。「南新疆の農村地域では教師はとても辛い職業である。夏休みもなければ、冬休みもない。生徒に不登校者がいれば、家ごとに一軒一軒と回って登校させなければならない。生徒が家庭の経済的な理由で教科書代を払えないときは、教員がその代わりに払わなければならない。そのほかに、毎年生徒を連れて綿摘みに行かなければならない。」ウイグル人社会において教師は、もともと伝統的に人々から尊敬され、敬意を払われる職業である。しかし、南新疆の農村地域において近年このような考え方が形成されることは以外である。詳細につい

表11 農村女性の将来子どもについてほしい職業

(単位：人)

職業 地区	教師	医者	幹部	警察	労働者	運転手	商人	農民	職人	その他
アクス地区	39	58	36	17	2	10	0	2	34	14
カシュガル地区	55	60	21	24	2	2	0	2	47	11
ホータン地区	38	47	40	9	2	6	5	12	46	5
計(人)	132	165	97	50	6	18	4	16	127	30
%	30	37.5	22	11.4	1.4	4.1	0.9	3.6	28.9	6.8

質問：子どもにどのような職業に就いてほしいと思いますか？  
 典拠：前掲表10を参照。

ては更なるフィールド調査が必要であるが、政府による義務教育の管理体制との関連性を指摘せざるを得ない。1985年に「中華人民共和国義務教育法」が公布され、義務教育を普及させることが法律的に義務化された。しかし、新疆の農村地域においてこの法律の真の意味での実施が得られたのは2004年以降のことである。そのため、生徒が授業料と教科書代を払えない場合は教師がその代わりに払わなければならないというような現象が起きたのである。もともとと政府の農村行政機関が解決すべきこれらの問題は、経済的な状況が困難であるため、人為的に教師に押し寄せられたのであった。

## 2. 女子教育の重視

今回の調査では、農村女性の女の子の教育に対する考えに、一つ意味深いデータが得られた。それは、表12のように「息子には教育を受け続けてほしくないが、娘には受け続けてほしい」という回答が、「娘には教育を受け続けてほしくないが、息子には教育を受け続けてほしい」という回答よりやや多かったことであり、それぞれ、4.1%と3.6%であった。インタビュー調査のなかでも、一部の女性は女の子の教育に対して強い関心を示した。その背景には、将来女の子には経済的に自立してほしいという願望があったからである。例えば、表13のように「女の子の教育の必要性」について尋ねたところ、2.3%が「必要がない」、5.0%が「それほど必要があるとは思わない」、0.7%が「どちらでもない」、10.9%が「勉強しても大学には進学できない」と答えているのに対し、44.1%が「非

常に必要であり、教育を受けさせなければならない」とはっきり答えている。その理由は、「農村では、女性の社会的な地位が低いので、勉強して知識を身につければ、将来旦那に任せられ、馬鹿にされることもない。自分の収入があれば、旦那に頼って生活することもない。そのため、女の子に教育を受けさせることは非常に重要である。」ということであった。つまり、アンケート調査の結果からもわかるように、半数近くのウイグル人農村女性は経済的な自立の重要性を認識しており、経済的に自立することによって旦那に頼って生活をせざるを得ないという苦しい立場から抜け出すことができると考えているようである。前述の第 項目で示した表7では、「中途退学の理由」が「経済的な原因」によるものであると答えたのが最も多く32.7%を占めていることを考えれば、女の子にもっと勉強して自立してほしいと望んでいるのも、自分自身の経験とは無関係ではないであろう。

もともとウイグル人の伝統的な考えでは、男の子が結婚した後、一家の主人となり、家族を養うための何らかの職人技術を身につけることが非常に重要視される。これに対し、女の子は結婚後、主に家事や育児を担うことであるため、家事が得意であることと、教養があることが求められる。しかし、今回の調査を通してこのような考え方に変化が生じていることが明らかになった。多くの農村女性は女性にとって経済的な自立の重要性を認識しており、経済的な自立によって女性の社会的な地位を高めることができると考えているようであった。このことは、

表12 農村女性の子どもの教育に対する態度

(単位：人)

地区 \ 答え	そう思う	そう思わない	女の子には受けさせたくない、男の子には受けさせたい	男の子には受けさせたくない、女の子には受けさせたい	受けさせたいが、経済的に許せない	その他
アクス地区	127	1	6	2	25	4
カシュガル地区	107	3	8	11	41	2
ホータン地区	85	2	1	5	46	1
計 (人)	319	6	16	18	112	7
%	72.5	1.4	3.6	4.1	25.5	1.6

質問：子どもに教育を受けさせたいと思いますか。

典拠：Sherinay Masot, 2004, "Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining pärzäntirini tärbiyiläsh qarishi (南新疆におけるウイグル人女性の子女の教育に対する考え)", *Shinjang maarip inistituti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san:22.

表13 農村女性の女の子の教育に対する重視と考え

(単位：人)

地区 \ 答え	必要がない	あまり重要ではない	どちらでもない	教育を受けても大学へは進学できない	非常に重要である	その他
アクス地区	6	9	1	13	71	41
カシュガル地区	1	2	1	16	44	90
ホータン地区	3	11	1	19	79	23
計 (人)	10	22	3	48	194	163
%	2.3	5	0.7	10.9	44.1	37.0

質問：女の子に教育を受けさせる必要がありますか？

典拠：希日娜依·买苏提, 2004, 「新疆维吾尔农村妇女的教育问题研究 (调查报告)」(南新疆のウイグル人農村女性の教育問題に関する研究)、54頁。

南新疆の農村地域におけるウイグル人女性の子ども、とりわけ女の子の教育に対する考えにも影響を与え、女の子の教育に積極的な姿勢を示しているのである。

## VI 子どもの教育に対する責任感について

以上では、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性の子女に対する考えについて述べてきた。それは、農村女性が子どもに教育を受けさせることの重要性を認識しているのみならず、とくに経済的な自立が女性にとっての重要性をも認めており、女の子の教育に積極的であることがわかった。では、このような考えに基づい

ている農村女性の、子どもの教育に対する責任についてどのように感じられているのであろうか。以下の調査結果を見てみよう。

### 1. 子どもの教育の責任は誰にあるのか？

ウイグル人の伝統的な子育てに関する考えでは、子どもが7歳位になるまでは概ね母親が面倒を見ることになるが、7歳を過ぎると、男の子は父親が、女の子は母親が責任持って教育するという明文化されていない責任分担がある。例えば、ウイグル人の諺に、「母親の教育を受けた者(女の子)は家事(炊事・料理、裁縫)が得意となり、父親の教育を受けた者(男の子)

は職人の専門家となる。」「父親の技術は子ども（男の子）に遺産となり、父親の技術を捨てたものは一生後悔する。」などといったような親子の教育関係に関する言い伝えが多く存在することも、この点を証明している。(Abliz ämät, 2001: 7)

今回の調査でもこの問題について「女の子の教育は母親の責任であり、男の子の教育は父親の責任であると思いますか」と設問し、アンケート調査で聞いてみた。その結果、「そう思う」と答えたのは16.8%であるのに対し、「そう思わない」と回答したのは32.7%に上った。ここまでの回答のみに注目すれば、伝統的な考え方が次第に変化し、「子どもの教育の責任は両親ともにある」とする認識に取って代わりつつあるように見える。しかし、その一方で「男の子も女の子も、教育の責任は母親にある」と答えた者は27.2%であり、逆に「男の子も女の子も、教育の責任は父親にある」と回答した者は5.9%であった。その理由として、前者は「父親は仕事で忙しいので、子どもの教育は母親の責任である」ということを挙げており、後者は「父親は一家の主人であるので、子どもの教育は父親が責任を持つべきである」ということを挙げてている。

以上の調査結果から読み取れることは、南新疆の農村地域において、上述のような子どもの教育に対する親の責任分担という伝統的な考え方は、ウイグル人農村女性にある程度の影響力

はあるものの、全体的なアンケート調査の統計を見れば、子どもの教育に対する親の責任分担という考えに賛成できない立場を示した女性がむしろ多かった。ここで注目すべきことは、「子どもの教育は母親の責任である」と答えた女性が一定の割合を占めたことである。この割合は、前述の伝統的な考えに賛成できない女性の割合を合わせれば、半数近くあった。実際インタビューのなかでも「子どもの教育は母親の責任である」と強調する女性が多くいたことも印象的であった。例えば、調査のなかで、農村女性は毎日旦那とともに農作業を行う以外に、家事をもこなしており、非常に苦勞している様子を観察して、なぜ旦那に家事の手伝いや子どもの面倒を見てもらわないのか、というような質問をしてみた。しかし、この質問に対し、多くの農村女性は、「子どもの面倒を見るのは我々女性の役目である」と言い切った。

では、このような子どもの教育の責任は自分自身にあると強調する農村女性の、子どもの教育の実践においてどのような責任を果たしているのか、とくに子どもの勉強と関連付けて調査結果を見てみよう。

## 2. 強い責任感と疎かな実践（責任のあり方）

以上のデータからうかがえるように、南新疆の農村地域におけるウイグル人女性には「子どもに（学校）教育を受けてほしい」という強い願望あり、その責任は自分自身にあると考えて

表14 農村女性の子どもに対する責任のあり方

(単位：人)

地区 \ 答え	責任は両親ともにある	両親とも の責任で はない	責任は 母親にある	責任は 父親にある	考えてない	その他	無回答
アクス地区	26	53	34	8	1	18	9
カシュガル地区	22	46	56	8	2	15	5
ホータン地区	26	44	30	10	0	26	0
計(人)	74	144	120	26	3	59	14
%	16.8	32.7	27.2	5.9	0.7	13.4	3.2

質問：子どもの教育の責任は誰にあるのか？

典拠：Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining pärzäntlirini tärbiyiläsh qarishi (南新疆におけるウイグル人女性の子女の教育に対する考え)”, *Shinjang maarip instituti ilmiy zhornüli* (紀要), 4-san: 25.

いることが明らかになった。しかし、以下に示すようにその実践においては、必ずしも思っているほどの責任を果たしているとは言い難い。

アンケート調査の中で、まず、子どもの教育のために絵本や参考書を買ってあげることがあるかどうか、質問してみた。「買ってあげる」と答えた女性は68.9%占めたが、「買ってあげない」、「買ってあげたいと思っただけがない」と答えた女性は合わせて16.35%あった。また、「買ってあげたいが、経済的な余裕がない」と答えた女性も10.7%であった。この結果からは一見70%近くの女性が子どもに書物を買ってあげているように読み取れる。しかし、インタビュー調査の中でさらに詳しく聞いてみると、月に一冊の書物を買ってあげるのは極めて少なく、年に一冊、場合によっては何年に一冊という具合であり、それも絵本のみであった。教科書以外の参考書を買ってあげることはほとんどなかった。

次に、子どもの勉強を手伝ったり、勉強するよう注意したりすることはあるかどうか、聞いてみた。この質問に対してアンケート調査の中では、「そうする」と答えた女性が92.7%に上っている。しかし、インタビュー調査のなかで明らかになったことであるが、それは、子どもに宿題が終わったかどうかを尋ねる程度のことであった。

そして、子どもの教育のためにどの程度投資しているのか、ということについても尋ねてみたが、経済的な余裕がないということもあって、最低限の勉強道具さえ調べてあげることはなかった。

一方、ウイグル人は伝統的に子どもに物語を聞かせることが極めて重要視され、教育の一環として行われてきた。前述のアブドシュクル・ムハマトイミン氏は、ウイグル人の教育の一環として行われてきた子どもに物語を聞かせることについて「物語を聞かせることによって、子どもの想像力や、生物と動物に対する関心、それに考えたことをまともに伝える力を培うことができる。」(Abdushükür Muhämmätimin, 2002: 146)と述べて、その有用性を強調している。今回の調査においても「子どもに物語を聞かせることがあるかどうか」についても聞いてみた。その結果、子どもに常に物語を聞かせると回答

した女性は45.9%を占めた。また、子どもが小さい頃に聞かせたことがあると答えた女性も19.5%あった。しかし、一度も聞かせたことがないと答えた女性と、物語を語れないと答えた女性が、合わせて28.8%あった。インタビュー調査のなかでは、学歴が低いため、子どもの勉強を手伝うことができないと話がよく聞かれるが、然るに非識字者であっても物語が語れる条件であるにもかかわらず、30%近くの女性が子どもに物語を聞かせたことがなかったのは以外であった。

南新疆におけるウイグル人農村女性は、子どもに教育を受けてほしいと強く望んでおり、その責任をも強く感じている。にもかかわらず、以上の内容が示しているように、思っていることとその実践が一致しておらず、必ずしもその責任を果たしているとは考えられない。なぜ、このような現象が生じているのか、という背景については、様々な側面と関わっており、更なる検証が必要であるが、ここでは前述のアンケート調査によって明らかになったウイグル人農村女性の学歴の低さという点で言えば、この学歴の低さこそが子どもの教育の向上に対する責任の果たし方を妨げている原因の一つになっているのではないかと推測される。というのも、自分自身の経験から、子どもの教育の向上には強い願望があるものの、その実践においては、今度は自分自身の経験していないことに責任を果たすということになると、それは些か難しく感じられたのではないであろうか。また、南新疆の農村地域において貧困な生活も農村女性の子どもに対する経済的な投資が制限され、責任を果たせない要因の一つになっているのではないであろう。

## Ⅶ 第11次五ヵ年計画以降のウイグル農村社会の変貌についての展望

最後に、最近の状況について触れておきたい。2006年以降、中国の農村社会に大きな変化があった。それは、同年3月14日に開かれた第10期第4回全国人民代表大会において通過された「国民経済と社会発展に関する第11次五ヵ年計画」の決議によるものであり、この計画案の核心は第2篇「社会主義的な新農村を建設する」という部分であった。このことは新疆の農村社会に

も多大な変化をもたらした。貧困地域の水力、電気、道路、通信などのインフラ整備などが建設され、特に農家の収入に顕著な増加が見られた。2006年の一人当たりの平均年間収入はカシュガルでは1872.85元に、ホータンでは1417.29元に加え（『新疆調査年鑑2007年』491頁）、表8で示されている1996年のデータと比較してもその増加は一目瞭然である。しかし、全国の農村の平均収入に比べれば、依然として格差が大きい。例えば、2006年の全国農村の一人当たりの平均収入は3587元であったのに対し、新疆の場合は、2737元に過ぎなかった（『新疆調査年鑑2007年』265頁）。

以上のような背景のもと、近年、南新疆の農村女性を対象に行われた調査報告も増えている（趙新居，2004年，袁琳君・張明・馮潔，2007年，楊霞・劉雲，2007年）。それによると、ウイグル人農村女性の全体状況は本稿で扱っている2000年の状況とはそれほど変わっていないようである。しかし、2009年にカシュガル地区とホータン地区の農村地域（ボスカム県、チュラ県）から新疆師範大学に教員研修で来ている女性教員の話によれば、農村女性の子供の教育に対する考えに変化が見られるという。毎年、新学期になると学校に子供の担任はどの教員なのかということについて尋ねてくる母親と、子供の勉強や学習態度について相談に来る母親が増えており、このような状況は以前ではほとんど見られなかった現象であるということであった。

2006年からの第11次五ヵ年計画以降の新疆における農村社会の変化は大きい。それは、特に経済収入と生活改善という側面においてよく現れている。このような背景は農村女性の子供の教育に対する関心と期待に積極的な影響を与えていると考えられるが、この問題については、追跡調査に期待されたい。

## VIII おわりに

以上ではフィールド調査によるデータを基に、ウイグル人が比較的集中している南新疆の農村地域のウイグル人女性を対象に、これまでに受けてきた教育状況について、そして、その子女の教育の対する考えについて、という二つの側面から検討を試みた。その結果、以下のようなことが明らかになった。

第一に、南新疆のウイグル人農村女性の受けてきた教育の年数が少なく、学歴が比較的到低いものであった。調査結果でも示されているように、今回の調査対象となった農村女性では、小学校以下の学歴を有するものは50%にも達しておらず、中学校、高校までの学歴を有するものは合わせて30%しかなかった。こうした状況をもたらした原因の一つが中途退学者の割合が高いことによるものであった。その背景にはさまざまな要因があったが、家庭の経済状況の貧困によることと、親の反対によることが最も多く、教育を受け続けることができず、中途退学の原因になっていた。また、成人になってからの学習機会も極めて少ないものであった。例えば、ウイグル人社会において手工芸技術の修得は常に盛んに行われるものであるも関わらず、こうした技術を身につけている農村女性の割合は半数程度であった。

第二に、ウイグル人農村女性の子どもの教育に対する目的が明確であり、その将来に大きな期待を寄せていることである。調査結果が明らかになったように、大多数のウイグル人農村女性はその子女に対し、可能な限り学校で教育を受けさせて、高学歴になることを望んでいた。その目的は、教育を受けることにより、将来よい仕事についてほしい、よい生活をしてほしいという願望によるものであった。とくに今回の調査では女の子の教育に対する母親の重視が認められた。それは、多くの農村女性が将来女の子の経済的な自立の重要性を認識しており、経済的に自立することによって女性の社会的な地位を高めることができていると考えているからであった。このような考え方の形成は、母親自身の低学歴という経験から導かれたことであり、今後のウイグル人農村社会における子どもの教育に、とりわけ女の子の教育に積極的な影響を与えるものと期待される。

第三に、ウイグル人農村女性の子どもの教育に対する責任感についてであるが、調査の結果、子どもの教育に対して半数近くの農村女性が子どもの教育は自分自身の責任であると強く感じている。しかし、実際には、多くの場合はその責任を果たしていない。この点は、農村女性が受けてきた教育とその学歴、さらに農村社会における貧困な経済状況と貧しい家庭生活とも関

係しているのであった。

以上の点からもわかるように、南新疆の農村社会において多くのウイグル人女性が貧困や早婚という伝統的な風習により、学校で教育を受けることができず、結果的に低学歴を招いた。自分自身のこのような経験により、できる限り子どもには高い教育を受けてほしいと望んでいるが、皮肉にもまたもや経済的な貧困や自分自身の低学歴の状況からそれなりの援助ができない、望んでいる責任を果たせないという結果をもたらしている。

最後に今回の調査では、南新疆におけるウイグル人農村女性の子どもの教育状況について調べることができなかった。この問題を今後の課題としたい。

## 謝辞

本稿の執筆にあたってはリズワン・アプリミティ氏より貴重な情報提供と提言をいただいた。深く感謝する。

## 参考文献

### <中国語>

- 刘云, 徐霞, 1995, 『新疆妇女运动史』, 新疆大学出版社.
- 海里且姆·斯拉木, 1995, 『新疆女性问题研究』, 新疆大学出版社.
- 徐霞, 1999, 『新疆少数民族女性教育研究』, 新疆大学出版社.
- 曹红, 1999, 『维吾尔族生活方式』, 中央民族大学出版社.
- 高仲霞, 1999, 『新疆农村社会保障体系研究』, 新疆人民出版社.
- 新疆维吾尔自治区人民政府外事办公室, 1988, 『新疆概览』, 新疆摄影艺术出版社.
- 刘志霄, 1985, 『维吾尔族历史』, 民族出版社.
- 李扬, 2006, 『维吾尔族民族风情』, 新疆美术摄影出版社.
- 国家统计局人口和社会科技统计司, 国家民族事务委员会经济发展司, 2003, 『2000年人口普查中国民族人口资料(上册)』, 民族出版社.
- 新疆维吾尔自治区地方志编纂委员会, 2003, 『新疆年鉴2003』.
- 迪木拉提·奥买尔, 1998, 『维吾尔妇女在南疆农村

脱贫致富中的作用(调查报告)』.

希日娜依·买苏提, 2004, 『新疆维吾尔农村妇女的教育问题研究(调查报告)』.

国家统计局新疆调查总队, 2007年『新疆调查年鉴』, 中国统计出版社

趙新居「新疆城鄉维吾尔族居民子女教育对比分析」『新疆大学学报(社会科学)』2004年(1) 67-71頁

袁琳君・張明・馮潔「新疆少数民族妇女權益狀況調查及对策分析」『新疆大学学报(哲学人文社会科学)』2007年(4) 94-96頁

楊霞・劉雲「新疆妇女/社会性別研究与回顧」『新疆大学学报(哲学人文社会科学)』2007年(6) 36-40頁

### <現代ウイグル語>

Abdukerim Rakhman, 1989, *Uyghur Folklori Häqqidä Bayan* (ウイグル民俗誌概論), Shinjang Universiteti Nāshriyati.

Abdurāhim Häbibulla, 1993, *Uyghur Etnografiyisi* (ウイグル民俗誌), Shinjang Khālıq Nāshriyati.

Abdushükür Muhämmätimin, 2002, *Ailä* (家族), Shinjang Universiteti Nāshriyati.

Anar Muhämmät, Gülbahar Nasir, 2007, *Jälipkar Qiz-Mukämmäl Ayal* (魅力的な女、優しい母), Shinjang Yashlar-Ösmürlär Nāshriyati.

Aynurä Dolat, 2003, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayalliri wä ailä iqtisadi toghrisida (南新疆の農村社会におけるウイグル人女性と家庭経済)”, *Shinjang pidagogika uniwersiteti ilmiy zhornili* (紀要) 3-san: 41-46.

Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining mädäniyät sapesini yuqiri kötirish häqqidä qisqichä mulahizə (南新疆におけるウイグル人女性の教育レベルに関する一考)”, *Shinjang pidagogika uniwersiteti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san: 6-9.

Sherinay Mäsot, 2004, “Jänubiy Shinjang Uyghur yeza ayallirining pärzantirini tärbiyiläsh qarishi (南新疆におけるウイグル人農村女性の子どもの教育に対する考えについて)”, *Shinjang maarip inistituti ilmiy zhornili* (紀要), 4-san: 21-26.

Abliz ämät, 2001, *Uyghur Khālıq Maqal-tämsilliri Izahliq lughiti* (ウイグル諺辞書), Qāshqār Uyghur Nāshriyati.